

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	プラナリアの再生組織構築を決定する位置情報システムの解明	研究代表者名	阿形 清和
-------	------------------------------	--------	-------

該当箇所()に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
順調に研究を進めており、引き続き研究を推進するに値する成果をあげている。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ() 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
単一細胞のプロファイリングなど質の高い成果をあげている。研究を進展させ独自性のある成果を挙げることを期待したい。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
着実に成果をあげており独自性のある成果が得られる事を期待する。なおプラナリア独自のものの理解をより深化させることの重要性を指摘する複数からの意見があったことを付記する。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア () 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
問題無し。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア () 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：
問題無し。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

形づくりに関しての座標軸の決定と時系列の制御に関して優れた成果をあげている。プラナリアをモデルとしたメカニズムの解明が形づくりの基本メカニズムの理解に進む事を期待する。なお、プラナリアの発生・再生の独自性と普遍性のメカニズムの中から哺乳類（マウス）のメカニズムをどう抽出するかを常に考慮されたい。